

平成 25 年燧灘カタクチイワシ漁況予報

平成 25 年 6 月 24 日
香川県水産試験場

香川県では、平成 5 年から燧灘海域において、愛媛県、広島県と共同でカタクチイワシの資源管理に取り組んでいる。平成 24 年の共販の取扱数量は 1,654 トンで、前年比 102%、平年比（平年値：平成 5 年～平成 23 年までの平均）104%であった。取扱金額および平均単価はそれぞれ 13 億 3,320 万円（前年比：163%、平年比：101%）、806 円（前年比：159%、平年比：92%）であった。平成 24 年の共販量は前年並みであったが、共販金額は、単価が高価であったことから 24 年より大幅に増加した。ただ、平年と比べると、共販量・共販金額はともに平年並みであった。ここでは、過去 19 年間の調査を基に、平成 25 年 6 月下旬以降の漁況予測を行った。

1. 水 温

燧灘東部沖合 4 点における水深 10m の水温の変化をみると、1 月から 6 月の水温は 2 月を除き「平年並み」で推移していた。前年と比べると 1 月及び 2 月で低く、4 月、6 月で高かった。カタクチイワシは水温が約 13℃以上になると産卵を始めることが知られており、今年も昨年同様に 5 月間近になってから産卵が始まったものと思われる。6 月 4 日の水温は平年並で、前年より 0.7℃高かった。

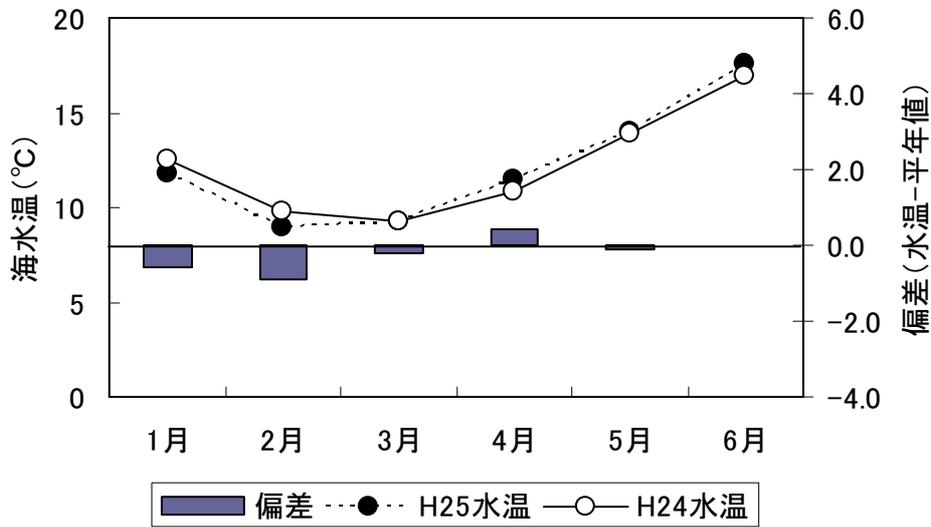


図 1 燧灘における水深 10m の水温の季節変化

2. カタクチイワシの卵と仔魚の出現状況

カタクチイワシの卵稚仔の出現状況について調べるため、4 月上旬から 6 月下旬の間に合計 6 回の卵稚仔調査（浅海定線調査を含む）を行った。卵稚仔の採集はマル特Bネット（口径 45cm）の 20m 鉛直曳きで行った。

カタクチイワシの卵は 4 月下旬から出現した。4 月下旬～6 月上旬にかけての出現量は概

ね平年並みで、6月下旬は前年および平年より多く出現した（図2）。仔魚の出現量については、5月上～6月上旬は5月下旬（平年並み）を除き、平年より少なめに、6月下旬は前年および平年より多めに出現していた（図3）。これらのことから、産卵量は平年並みからやや多いものと考えられる。また、6月上旬の仔魚出現量が少なく、同下旬に多いことから、6月上旬以降、ふ化率の高い良質な卵が産出されているものと推定される。

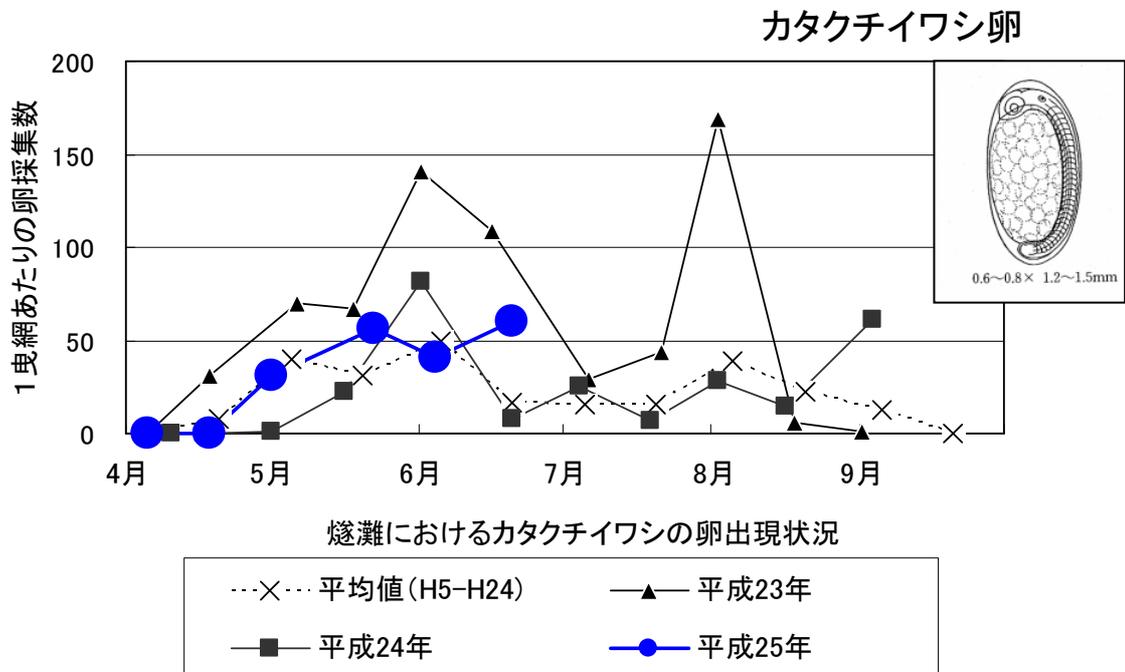


図2 1 曳網あたりのカタクチイワシ卵の採集量

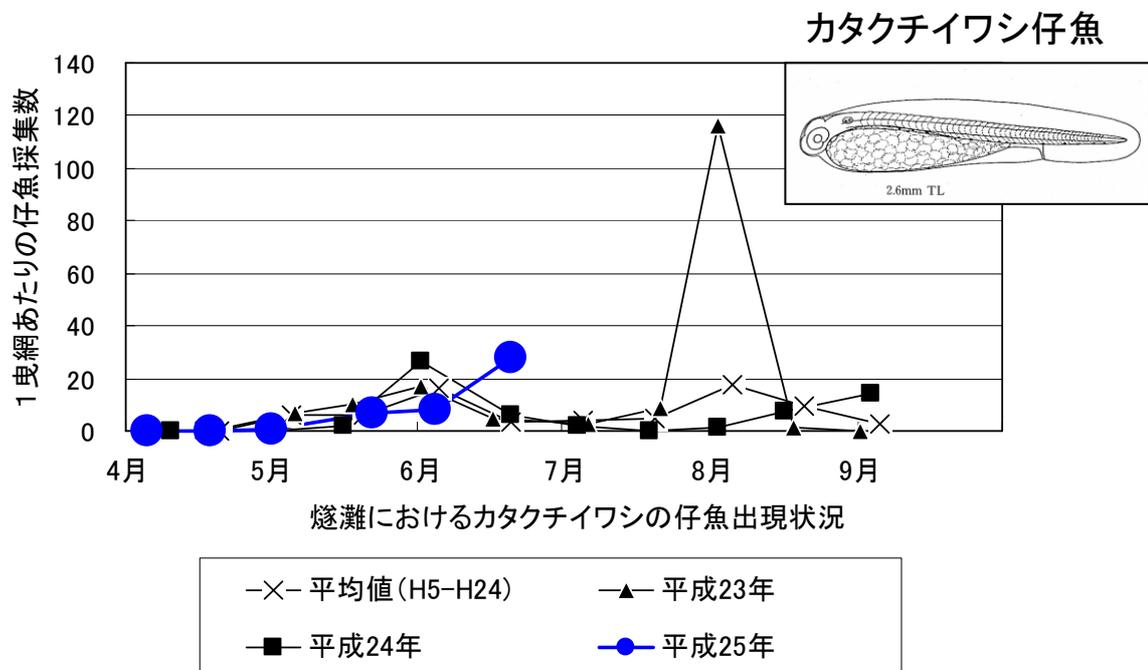


図3 1 曳網あたりのカタクチイワシ稚仔の採集量

3. プランクトン

口径 45cm のマル特Bネットで動物プランクトンと大型植物プランクトンの調査を実施した。4月上旬から6月下旬までのプランクトンの優占種と沈殿量を表1に示す。

5月～6月のプランクトンの量（沈殿量）は前年を大きく下回った。特に5月下旬までの優占プランクトンはノクチルカ（夜光虫）であり、6月下旬になってカタクチイワシの主餌料であるカイアシ類（COP）が優占して出現したが、それまでは餌料環境としては低い水準と考えられる。

表1 プランクトン優占種と沈殿量の推移

	4月下旬	5月上旬	5月下旬	6月上旬	6月下旬
平成 25 年	NOC	NOC	NOC	RAD	COP
(沈殿量 mL)	COS COP				
	5.1	4.1	1.4	2.1	7.0
平成 24 年	NOC	NOC	NOC	NOC	DOL
(沈殿量 mL)		COS COP	SAG COP	COP	NOC
	1.0	11.9	26.6	9.7	19.8
平成 23 年	COP	COP	OPH	COP	RAD
(沈殿量 mL)	NOC COS	COS	COP		HYD
	1.0	0.7	0.4	0.7	3.5

※「網かけ」がされているものが、餌となるプランクトンである。

COP：コペポータ（カイアシ類） RAD：ラジオラリア（放散虫類）

NOC：ノクチルカ（夜光虫） DOL：ドリオラム（ウミタル）

HYD：ヒドロ（ヒドロクラゲ類） COS：コスキノディスクス（珪藻）

OPH：クモヒトデ属の幼生 SAG：サジッタ（ヤムシ）

4. カタクチイワシの漁況予測

6月下旬から漁獲されるチリメンは、5～6月に燧灘で産卵された卵がふ化、成長したものである。この時期のカタクチイワシは1日約0.7mmで成長し、漁獲サイズの30mmに成長するのは孵化してから約40日後と考えられている。したがって、早いものでは、5月上旬にふ化したものが6月中頃からチリメンとして加入し始めるものと推定される。

平成25年の水温は、2月がやや低めでその他の月は「前年及び平年並み」に推移し、5月の卵の出現量が「平年並み」であったことから、加入は「平年並み」と考えられる。さらに、5～6月下旬の産卵量が「平年並みからやや多い」と推定されることから、十分な産卵量は確保できていると思われる。ただ、5月上旬～6月上旬のカタクチイワシの餌料環境はあまり良くないと考えられる。

チリメン漁解禁後の漁況予測：チリメン漁解禁後の漁模様はややもたつき、チリメンの加入量は「平年並みからやや少ない」と推定される。